

Trait d'union

トレデュニオン

No. **58**
2018-8



- 海外展から読む 2018～19 秋冬シューズトレンド 2-5
- SFC 東日本支部補習講座
シューフィッターのためのスポーツシューズの基礎知識
～スポーツシューズのフィッティング編～ 6-9
- SFC 西日本支部補習講座 歩行の基礎学 10-15
- 第 21 回定時総会概要報告 16
- 平成 30 年度アクションプラン 17
- FHA 会員企業紹介 18-19
- 事務局便り 20



FHA
ホームページ
リニューアル



個性プラス市場性が要。 エレガンス傾向の拡大化

(株) ジャルフィック チーフエディター 岡村 嘉子

18-19 年秋冬に向けた世界最大のシューズの見本市であるミカムが、2月11日から14日までの4日間、イタリアのミラノにて開催されました。

ビジターは44,227名。引き続きロシアからの訪問客が+22%と大きな伸びを見せました。しかしその一方で、この3年で日本のバイヤーは半分近くに減少しています。デフレによる低価格化は日本の靴市場においても広く一般化しており、イタリアの中高級品に対するパイが小さくなっていることは否めません。そしてこの事情がバイヤーの数にも反映されているのでしょうか。

今シーズンの展示会では、前シーズンからのエレガンス傾向が本格的に拡大しています。アイテム展開からトゥラインやヒールに至るまで、新鮮なエレガンス表現が印象的です。

「60年代から80年代のモチーフの新鮮さ」

“モード感のあるエレガンスデザイン”という前シーズンからの流れが、引き続き顕在化しています。そして、この流れの中で表現としての新鮮さをもたらしているのが、60年代から80年代にかけてのデザインモチーフです。例えばそれは、シャープなラインのコーンヒールや、やや伸びのあるポイントドトゥ、そして履き口の深いアップーデザインなど。このような要素を取り込んだパンプスやブーツのバラエティは豊富であり、その表現も抑制が効いていることから、幅広い年齢層に訴求力を持つテーマとして期待されます。また、次のシーズンへと繋がっていく流れとも受け取ることができます。

一方、アイテムとしてのトレンドを見てみると、依然としてショートブーツの提案が盛んです。これはもはや定番と言えます。そろそろ復活か？と囁かれているロングブーツは、一部での好調ぶりが伝えられています。ここしばらくロングブーツ不在の店頭も多く、買い替え需要に伝えられていなかったこともあり、特に安心感のある高品質な定番商品へのニーズが浮上しているようです。ま

た、感度の高いゾーンには、ニーハイやサイハイ丈といった特別なファッションアイテムへのニーズが存在しています。

ここ数シーズン注目されているミュールやブーシュー、あるいはスリングバックといったアイテムを、秋冬仕様の素材で展開するという傾向も引き続き継続しています。変化の激しい気象環境、あるいはどこかにリラックス感（抜け感）を求めるスタイリング傾向などを要因に、シーズン性によるアイテムのカテゴリライズはますます希薄なものになっています。このことが新たな商品提案のモチベーションに繋がることに期待したいものです。

ひと頃会場で賑わいを見せていた、比較的こなれた価格のトレンドアイテムを幅広く構成するブースにはすでに落ち着きが感じられます。代わって盛況を見せたのは、トレンドに配慮して商品を絞り込みつつ、ブランドならではのオリジナリティのある表現を行うブース。“個性プラス市場性”の価値づくりが、今の商品力には欠かすことができないものになっています。

FORM & ITEM

「トウラインとヒールのシルエットで見せる」

エレガントな雰囲気表現するラストとして際立ったのはシャープでスリムなポインテッドトゥ。パンプスからブーツまで幅広く用いられ、フレッシュなモード性を感じさせました。続いてワイドなスクエアトゥがクラシックやトラッドムードを意図したアイテムで提案されました。また特にブーツでは、ボリューム感のある大人の雰囲気のラウンドトゥの登用が目立ちました。

エレガンスムードの高まりとともに関心を集めたのが、バリエーション豊かなヒールです。前回から主流のロー～ミドルヒールに加え、7cmや10cm以上の高いヒールが好調。その形状もスティレットやフレンチヒールに加え、コーンヒールが新たに登場

しています。これが細身のポインテッドトゥにコーディネートされ、そのシンプルなモダンさに注目が集まりました。また、チャンキーヒールも続いています。

アイテムとして光ったのはスリングバック。深いトップラインや、甲を覆うようなデザインが新鮮でファッション的にも注目されます。また、ミュールやバブーシュもソールを厚くしたスポーティーな提案や、ファー使い等によって新しい表情に生まれ変わりました。一方スポーティーなアイテムとしてジェンダレスにピックアップされたのはトレッキングシューズです。



深いトップラインのスリングバック。
モードなエレガンス感が要



美しい円錐形のコーンヒール。
全体をシャープなシルエットでシンプルかつモダンに表現



フラットタイプでも多く提案された、
伸びのあるポインテッドトゥ



トラッドなムードを表現するスクエアトゥ。
モカ部のハウンドトゥースで装飾感を高める

MATERIAL & COLOR

「快適性を感じさせるソフト感の重要性」

品の良い柔和なシルキースエードが継続してメインのベース素材となりました。一方、ブーツで注目されたのはソフト感のあるスムーズ。ベビーカーフをはじめ、ナッパやディアスキン、あるいは久しぶりにキッドも登場、ブーツの本格的な復活に向けて外観からも柔らかさが伝わるような素材の登用が意図されているようです。そしてノスタルジックなイメージのしわエナメルが、そのソフト感に加えヴィンテージムードを彷彿させるものとして特にブーツで多く使われています。

スパイス力のある素材感として挙げられるのが、シンセティックも含めたファー。ブーツの全面に、履き口や中敷に、あるいはスニーカーのベロにと、

ユニークな展開が光ります。またベルベットを代表とする重厚な光沢の立毛素材もクラシカルなエレガンスムードを表現するものとして効果的に用いられています。

カラーは前シーズンのカラフルな展開とは変わって、シックな雰囲気に含まれています。エレガンスムードを表現するカラーとして、またブーツにおいてはリスクの少ないカラーという狙いもあってか、圧倒的にブラックが目立ちます。そこにアクセントカラーとして深みのあるボルドー、さらにボルドーを引き立てる渋めのオリーブやブルー、グレー等が添えられています。



華やかなカラーを穏やかにまとめ上げる力を持つシルキースエード



ストライプのようなプリーツが入ったベルベット。
グレーでシックに



シボによるソフト感が足あたりの柔らかさを感じさせる
ディアスキンのエナメル



トレンドカラーのボルドーのスエード素材。
華やかなミンクのファーで飾る

DETAIL & ORNAMENTATION

「多様に展開されるウエスタンブーツのモチーフ」

アイテムを問わず、シャープなシルエットを魅力とするデザインが大きな流れとなっています。中でも新鮮なのは、トップラインのデザイン性。履き口の深いパンプスや、ブーツのように深い甲部をデザインしたスリングバック等、プレーンな中でモード性を感じさせるアイテムが新鮮をもたらしました。

一方、アメリカンフォークロアがファッショントレンドなる中で、靴にはウエスタンブーツのディテールや装飾が多く登場しています。ウエスタンブーツそのものというよりも、厚目のソールにス

テッチを施したコバや、後部を斜めに切り落としたような太目のヒール、あるいは弧を描く筒部のトップラインといったディテールが、タウン仕様のブーツに取り込まれ新しい印象をつくり出しています。

また、依然として多いのはベルト使いです。美錠とともにスポーティーなトレッキングシューズやブーツに施されたり、エレガンスなパンプスやギリ風風のディテールの中に用いられたり。シンプルなデザインにアクセントを添えるものとして重宝されました。



ブーツのラストを用いたような甲を深く覆うスリングバック。大人のモード感が漂う



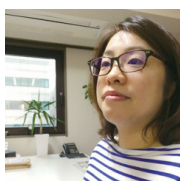
底周りとヒールにウエスタンエッセンスを加えたシンプルなロングブーツ



ウエスタンブーツをエレガントかつ華奢に表現したような一点



トレッキングブーツをゴールドの金具とベルトディテールでタウン仕様にアレンジ



岡村 嘉子 (おかむら よしこ)

大学卒業後、ジャルフィックに入社。新業態研究誌「Zerohour」の編集に携わり、衣・食・住・遊にわたるさまざまな新コンセプトショップの取材・執筆を経験する。現在はシューズ&バッグに関する機関誌「JALFIC」の企画・編集及び、トレンドセミナーや海外見本市レポートセミナーなどで講演を行なう。流行情報センター (JAFCA) が発行する「流行色」にもシューズ&バッグトレンドについて執筆中。

シューフィッターのための スポーツシューズの基礎知識

～スポーツシューズのフィッティング編～



講師 池田ノリアキ先生（ウォーキングトレーナー）

2018年2月22日(木) 東京・両国の国際ファッションセンターに池田ノリアキ先生をお招きして補習講座を開催いたしました。

池田先生は大学卒業後、1981年株式会社アシックスに入社、テニス・ランニング・ウォーキングシューズ企画開発、ウォーキングマーケティングを経て、フットウェアテクニカルスタッフに従事される一方、「サルティス池田」として20年間、ウォーキング販売促進やCSR活動をされてきました。2015年にアシックスを退職され現在はウォーキングトレーナー池田ノリアキとして精力的に活動されています。今回は池田先生にシューフィッターのためのスポーツシューズのフィッティングについてお話いただきました。

報告者 SFC 東日本支部 増田 京子

はじめに

昨年の「陸王」放送以降、「シューフィッター」はスポーツシューズの専門家のように世間から思われて困っている方も多いのではないかと思います。シューフィッターは靴全般を扱うのが仕事で、スポーツシューズはその中でも割合としては少ないと思います。今日は普段は革靴しか扱わないような方でも知っておいて頂きたいスポーツシューズの基礎知識について、お話ししたいと思います。



スポーツシューズの基礎知識とは

一口に「スポーツシューズの基礎知識」と言っても、企画、開発、設計、生産、研究、デザイン、製法、構造、品質管理、営業、マーケティング、販促、教育、接客と多岐にわたり、本当にスポーツシューズを知ろうと思うと、大変奥が深いです。メーカーの人間であれば当然知っていなければなりません、今日はシューフィッターの皆さんが実際に知って現場で役に立つ知識をお伝えしたいと思います。具体的には「機能」・「素材」・「製法」・「構造」・「教育」についてお話ししたいと思います。

例えば、「太極拳用シューズ」は一枚甲で作られています。これは、演武のときに靴で床を叩き、「パーン」と良い音を出すことを目的として作られているからです。つまり、実際に競技がどのようなものかを知らなければ、靴を作ることはできないということです。野球やサッカーのスパイクも、角度や方向が色々考えられており、それぞれの競技の運動特性を知ることも必要になってきます。

今回は、そのなかでも「スポーツシューズのフィッティングポイント」にフォーカスしてお話します。まずフィッティングのポイントは、静的と動的の二つがあり、さらに時間と温度があります。例えば、マラソンの場合で言えば、スタートとゴールではどのように変化するかということです。ここでは足囲や体積の変化をみます。一見走っていると足がむくむと感じる人が多いと思いますが、むくまずに減った人の方が多いという結果がでることもあり、実際に調査すると人それぞれでした。これは走ることによって血液やリンパの流れが促進されるからと考えられます。なぜむくむと感じる人が多いのか考えると、走ることでアーチが低下し、そこにあった空間が無くなり、かわって甲の上にすき間ができるため、足が前に滑りつま先などを圧迫し、痛みを感じることを、足をむくんだと勘違いしているのだと推測しました。以前は対処するために、途中でサイズの大きいものに履き替えて走っていたようです。全く逆の対応をしていたことから、履き替えずに靴紐をしっかり締め直すことで、最後まで痛みを

感じることなく走ることができました。ただし、本当に足がむくむ人には、途中でサイズを上げることが必要な場合もあります。その人の体質を把握したうえで、ある程度の仮説を立てることも必要になってきます。トップアスリートのようにフィッティングがパフォーマンスに直結し、特にマラソンのように長時間にわたる使用の際は、シューズが足にフィットしていることが重要となります。ただ、フィッティングの重要性は普通の靴でも同じです。

長時間走っていると足とシューズは擦れて摩擦熱が発生し、汗をかくのでシューズの内部は蒸れていきます。その結果、足にマメができたりします。こういったシューズ内環境を改善するために、素材や製法を考えることも必要になってきます。ただしこれには競技による特性を考慮しなければなりません。スポーツシューズの製法は、革靴のようにグッドイヤーやマッケイのようなものはなく、ボード製法がほとんどです。最近ではハーフボードが主流になっており、素材も昔は段ボールのような紙を使っていましたが、現在ではEVAなどの新素材が多く、やわらかく、曲がりやすい性質を利用しています。また、構造は踵の保持を例にすると、カウンター機能を外側につけるとか、中につける場合はどこまで延長して入れるか、どんな形状、硬さにするかなどを検討します。またアウトソール部分のアーチサポートをどうするか、アッパーのシューレース部分をどうするかなどです。そして一番肝心なものに、靴型(ラスト)、靴紐(シューレース)、中敷きがあります。靴ではありませんが、ソックスもフィッティングの重要なポイントと考えています。スポーツソックスには様々な機能があり、多くの素材が使用されていますので、機能や素材についても知っておかなくてはなりません。それに加えて競技の知識も必要になってきます。例えば、陸上競技のシューズでもフルマラソンや100km、10km、100m、それぞれ違ったシューズが必要です。

ここからは「ラスト」「シューレース」「中敷き」と「フィッティング方法」にフォーカスしてお話します。

① ラスト(靴型)底面の比較

ライフスタイルウォーキングシューズ
ランニングシューズ/パフォーマンス系
ランニングシューズ/レーシング系

② アウターソール(外底)の比較

GT2000 NY6
TARTHERZEAL 6

③ スポーツシューズのラスト②

事例) スポーツシューズラストとJISワイス

	JISワイス	C	D	E	2E	3E	4E	F	
		狭い(狭い)			標準			広い(広い)	
Men's		slim		Regular		wide		super	
JISワイス		C	D	E	2E	3E	4E	F	
		狭い(狭い)			標準			広い(広い)	
Ladies's		slim		Regular		wide		super	

スポーツシューズにもJISワイスを併記しているメーカーやブランドもあります。また、相關関係にも各社の考え方によって異なる場合があります。

④ スポーツシューズのシューレースの種類と特徴

●主に3種類に分けることができます。

①平ヒモ(結束材): 「面」で押さえられるので、しっかり締められる。競技用に最適。(ex: マラソン、レーシング、陸上スパイク、サッカースパイク)

②丸ヒモ: 締めやすいが、緩みやすい。スポーツシューズではあまり採用されていない。(ex: トレーニング、ハイキング等の履との組合せが多い)

③オーバル(費用): 平ヒモと丸ヒモの中間で、柔らかく弾力性が特徴。(ex: ランニング、ウォーキング)

⑤ スポーツシューズのシューレースの通し方①

革靴

スポーツシューズ

- ①左右均等に締まること
- ②緩みにくいこと
- ③弾力的であること

⑥ スポーツシューズのシューレースの通し方②

●スポーツシューズでは主に2種類の通し方があります。

	アンダーラップ	オーバーラップ
	左右両足に穴の下から上にシューレースを通す方法です。隙間が少なく、足全体がしっかりと締められるため、調整が容易です。	アンダーラップとは逆に、穴の上から下にシューレースを通す方法です。締めが緩く、締めにくい。調整が容易です。
	下から上へ	上から下へ

「ラスト」について

革靴のラストは足入れサイズを基本に設計されています。つまり、適度なつま先余裕を含んだ足長で設計されています。一方、スポーツシューズの特に競技用シューズのラストは一般的にはラストサイズで設計されます。つまり25cmと表示のあるスポーツシューズを履けるのは足長が25cm未満の人ということになります。25cmの足長ではつま先の余裕がなくなってしまうからです。実際の経験ではまず足長プラス1cmのサイズのシューズをフィッティングしてみることが目安になります。スポーツシューズは中敷きが外れるので、その上に足をのせて確認する方法もあります。正確にフィッティングするには、履いても踵をしっかりと合わせた状態でつま先部分を触って確認するのがベストです。スポーツシューズでもウォーキングシューズのようなものは、足入れサイズで設計されているものが多いようです。フィッティングするうえでラストの知識は必要ですが、実際は出来上がったものを合わせるテクニックが大切です。

ラストの底面を比較してみる(スライド①)と、一番外側から「ライフスタイルウォーキングシューズ」、続いてランニングシューズの「パフォーマンス系」「レーシング系」となっています。パフォーマンス系とはビギナー向けのクッション性の良いもので、初めてフルマラソンを走る、またはこれからジョギングを始める方用です。レーシング系は、底面からみるとかなりタイトにつくられているように見えますが、実際はアッパーの素材がパフォーマンス系に比べ薄く、柔らかく、馴染やすいものを使用しているので、足を入れた感じでは、両者にそれほど違いがなく、多少フィット感が良いくらいの感じです。

次は同じものをアウトソールから見たもの(スライド②)で説明します。パフォーマンス系は初心者向きなので踵とつま先部分を広くしています。レーシング系はその部分を狭くし素材も減らし軽量化をはかっていますので、不安定にも思われますが上級ランナーはしっかり重心移動ができるのでパフォーマンスがあがります。その他には、トラスティックという樹脂の方向が違います。トラスティックとは、簡単に言うと中足部のねじれをコントロールするためにあり、初心者を使うパフォーマンス系はねじれを抑制しつつ体重移動をしやすく設計されており、レーシング系は体重を前足部へスムーズに乗せていけるように設計されています。これにより、速く走る人にはストレスを感じることなくスムーズに重心移動ができるようになっています。

スポーツシューズのラストは基本的に競技によって違います。バスケットボールとバレーボールのように同じラストを使っているものもありま

すが、プレーキを頻繁にかけようようなスポーツのラストはかなりタイトにつくられています。ラストの底面はフラットですが現在は3Dラストといって踵やアーチの部分を検討し、よりフィットする3次元のラストも開発されています。アシックスでは、「スリム」「レギュラー」「ワイド」「スーパーワイド」などのバリエーションをそろえています。(スライド③)バリエーションを豊富に取り揃えておくことはメーカーのフィッティングへのこだわりの証です。また女性用のラストは骨が細く、足幅が狭く、甲も薄く、踵も小さいといった特徴を反映しています。そのため甲を押さえ中足部と踵を絞った設計になっています。女性は男性に比べて関節が柔らかいので、オーバープロネーションを起こしやすいと言われているため、ミッドソールの厚みも変えています。

「シューレース」について

スポーツシューズのシューレースは「平ヒモ」「丸ヒモ」「オーバル(楕円)」の3タイプに分けられます。(スライド④)「平ヒモ」は、面でしっかり締められるので競技用には向いており、結び目も小さくなりほどけにくいタイプでマラソン、レーシング、陸上スパイク、サッカースパイクなどに使われます。「丸ヒモ」は緩みやすいのでスポーツシューズではあまり使われません。主にD環を使った登山靴やトレッキングシューズなどに使われます。緩みやすいが締めやすく、締め方を容易に変えられるという利点もあります。例えば登山では登りと下りでは紐の通し方や締め方を変えます。「オーバル」は「平ヒモ」と「丸ヒモ」の中間で、現在、スポーツシューズのシューレースでは主流になっており、ランニングシューズやウォーキングシューズに広く採用されています。素材はポリエステルなどの化学繊維を使っていて弾力性があり、柔らかいクッション感が特徴です。

シューレースの通し方(スライド⑤)ですが、革靴の場合は、見た目がきれいに見えるようにします。スポーツシューズの場合は、Xのようにタスキ掛けに締めていきます。この締め方は左右均等に締めやすく、そして、シューレースの通し方には、「アンダーラップ」「オーバーラップ」の2つに分かれます。(スライド⑥)「アンダーラップ」は下から上にシューレースをハトメに通していくのですが、足に適度に馴染み圧迫感が無いので長距離ランナーに適しています。「オーバーラップ」は、上から下に通すので締めがよく緩みにくいですが弾力は少ないので短距離ランナー向きです。そしてもう一つ最近ネットでも話題になっている2段ハトメの使い方(スライド⑦)ですが、これは踵幅や足首が細い、甲が低いなど足とシューズが合わない人向けのテ

⑦ **スポーツシューズのシューレースの通し方③**

●シューレースの通し方の応用《2段ハトメ活用》



2018/2/22

●かかと幅が狭い
●足首が細い
●足甲が低い 等
足とシューズが合わない
お客様向けの応用です。

※参考出典元：アサヒスポーツウェア株式会社

⑧ **スポーツシューズのシューレースの通し方④**

●シューレースホルダー センターセット



2018/2/22

⑨ **スポーツシューズのシューレースの通し方⑤**

●シューレースホルダー アウトサイドセット/オフセット



2018/2/22

⑩ **スポーツシューズのフィッティング (履き方/履かせ方)**

シューレースの役割：足にシューズを合わせること



2018/2/22

●つま先を上げて、かかととトン！かかとを固定、最後までつま先は上げた状態をキープ

●つま先側から順に足に靴をフィットさせるようにヒモを締め

●必ず、立ってチェック！つま先に1cm程度のスペースがちょうどいいサイズの目安

※参考出典元：アサヒスポーツウェア株式会社

⑪ **競技別フィッティング事例：ランニング VS 陸上スパイク**



2018/2/22

目的・走行距離・走行時間・スピード・路面・グリップ性・クッション性・軽量性・反発性・耐久性・通気性・フィット性・安定性・屈曲性・・・等

⑫ **最近のトレンドフィッティング事例：BOAシステム**



2018/2/22

出典：BOAホームページ

クニックです。ネットでは間違っただけの情報としてアップされているものも多々見受けられますので注意してください。またシューレースの長さが足りなく、結べない可能性もあることを知っておください。次にシューレースホルダーについてですが、ペロ部分にあってシューレースを通すパーツで、これには「センターセット」「アウトサイドセット(オフセット)」の2通り(スライド⑧⑨)があります。基本はセンターで靴紐のズレを防止しますが、アウトサイドセット(オフセット)は中心より外側に設けることでペロの外ズレを防止してフィット感を向上させます。

「中敷き」について

フィッティングにおいて中敷きは重要な役割を持ちます。一般的な話になりますが、安価なシューズの中敷きはシートタイプを使っているものが多く、シューズの値段が安くても立体成型の中敷きを使っているメーカーは良心的だと思います。シート中敷きに比べ立体成型中敷きはアーチを支え、足への圧力を分散させます。体重を支えることを考えても足裏全体にかかる負担が少なくなります。圧力が分散されるということは安定するということです。

余談ですがトップアスリートは特別な中敷きをつくりません。何故かというトップアスリートのシューズは足型を採型してラストを設計します。従ってアーチなどの足底の形状はラストに反映されていますので、あえて専用の中敷きをつくる必要はないのです。

「フィッティングの方法」について

フィッティングの基本は足にシューズを合わせるということです。一般の人はシューズに足を合わせてしまっているのが現状です。あくまで池田流になりますが、シューレースを使って足にシューズを合わせる方法をお話しします。まずは、足が入るようにシューレースを緩めます。足を入れたら踵をシューズの踵に合わせて固定します。踵を固定したまま指先から足の形にそって締めていきます。シューレースを結ぶ前に踵を固定している真上にぐっと引き上げて結びます。コツはこままでつま先を下ろさずに行うことです。(スライド⑩) 何故かという、つま先を下ろした瞬間に足が前に滑って踵にすき間ができてしまうからです。そして立って必ずつま先の余裕をチェックします。

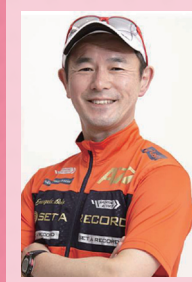
競技用フィッティングの事例として、ランニングと陸上スパイクシューズを比較してみます。(スライド⑪) まずはラスト形状が全く違います。ランニングと違い陸上スパイクは使用しているときにつま先で着地し

踵はあがった状態です。このように目的、走行距離、走行時間、スピード、路面、グリップ性、クッション性、軽量性、反発性、耐久性、通気性、フィット性、安定性、屈曲性などがフィッティングに影響します。最終的にはそれを履く顧客の好みも考慮しフィッティングすることが大切です。

最後に

最近のトレンドフィッティング事例として、BOAシステムに代表されるダイヤル式フィッティングについてお話します。(スライド⑫)

ダイヤル式フィッティングは、シューレースではなくダイヤル式で締めて、足を固定する仕組みです。ずいぶん前からこのようなシステムはありましたが、最近ではゴルフから始まり徐々に他のシューズに波及してきています。特徴としては、締める、緩める、脱ぐ、履くことが簡単にできます。ユニバーサルデザインなので、ハンデキャップのある方でも使いやすく作られています。ただし機械的な仕組みなので壊れてしまうと全く使えなくなってしまうデメリットもあります。特に注意が必要なのが、アウトドアでの使用です。例えば登山中に、正常に動かなくなってしまうことや壊れてしまうことがあれば、下山できなくなってしまう。ある登山の名人は登山靴は紐しか認めなかったそうです。ベルクロやマジックテープなど面ファスナーは簡単に締められますが、素材がナイロンなので気温が低くなると固くなり上手くつかなくなるそうです。ダイヤル式フィッティングも便利ですが、そういったリスクもあることを覚えておいてほしいと思います。またフィッティングを考えると、ダイヤル式フィッティングは全体的に締めるので、紐のように足に沿って細かく調節して締めることができません。メリット、デメリットをしっかり把握したうえでお客様のニーズに合った提案ができるようにして頂きたいと思います。



池田ノリアキ (いけだのりあき)

- ウォーキングトレーナー
- よしもと FA ふるさとアスリート
- ・健康運動実践指導者
- ・FHA 認定シューフィッター
- ・JWA 公認ウォーキング指導員
- ・JNWL 公認ノルディック・ウォーク指導員
- ・JSFP 認定転倒予防指導士
- ・メンタルヘルスマネジメントⅢ種



SFC 西日本支部補習講座

2018年2月26日(月) 14:00～16:00

歩行の基礎学

講師 江原義弘先生(新潟医療福祉大学)

2018年2月26日(月) CIVI 研修センター新大阪東に新潟医療福祉大学の江原義弘先生をお招きして補習講座を開催いたしました。「歩行」というシューフィッティングには切っても切れない内容を、全身運動という新しい切り口でお話いただきました。我々シューフィッターにはなじみの少ない内容もありましたので、少しでも理解が深まるように先生が講義で使用されたスライドを解説するという形でご紹介いたします。

報告者 SFC 西日本支部 朝守 文子

歩行とは ヒトの身体を足で移動させることです

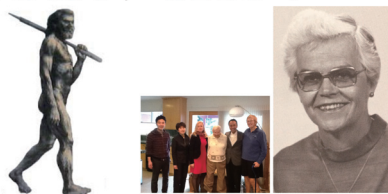


歩行と車椅子移動との違い



車椅子での移動と歩行とは共通点があります。それは両方とも地面に接触する部分
が、その上に載っているものを移動させているという点です。

乗客 上半身 機関車 下肢 パッセンジャーとロコモーター



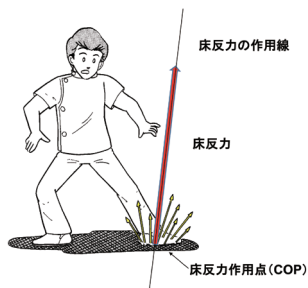
ジャクリーン・ペリー

ジャクリーン・ペリーは歩行するヒトを上半身と下半身とに分けて考え、下肢を機関
車にたとえてロコモーターと呼びました。そして上半身はその機関車に乗る乗客に見
立ててパッセンジャーと呼びました。このように機能を分けて考えると頭が整理され
ます。

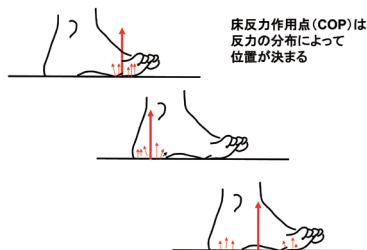
私はこの仕事を始めた若い時期にカリフォルニアのペリー先生のもとで半年間、歩行
分析を勉強しました。真ん中の写真は2年くらい前にペリー先生を訪問した時のもの
です。

下肢に課された使命 上半身を安全に移動させる 転倒させない

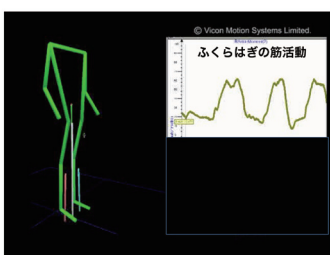
人体をこのように考えると、ロコモーターである下肢の使命はパッセンジャー（乗客）
を安全に移動させることだと考えられます。すなわちこの場合は「転倒させない」で
安全に移動させるということです。



人間の転倒を考える場合にもっとも重要な項目は身体全体を支える力、すなわち床反
力です。足が床に接触すると接触した部分には必ず反力が生じます。図はこの状態を
漫画で示したものです。各部分の反力の大きさ、方向はまちまちです。ただし、い
ずれの場合でも反力は上の方向に向いていることは確実です。反力が下を向いてい
ることはありません。図のように、足裏に分布している反力は1本の力に合成するこ
とができます。この1本の力を床反力と呼んでいます。反力を合成するので、合成
された力の位置は決まってきます。この場合の「位置」とは「作用線の位置」です。
このとき床反力の根本の場所を床反力作用点、すなわち COP (Center of Pressure)
と呼んでいます。

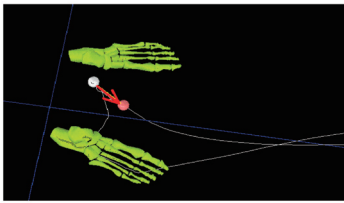


COPは反力の分布によって位置が決まります。したがって、ほとんどの反力が爪先に
分布していれば COP は爪先に位置し、ほとんどの反力が踵に分布すれば、COP は踵
に位置します。前足部と踵部に半々に反力が分布すれば COP は土踏まずに位置します。

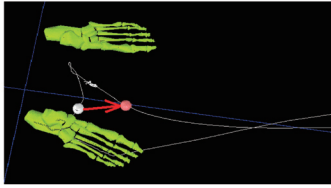


重心の真下に支持基底面があると、転倒しないで立っていられる

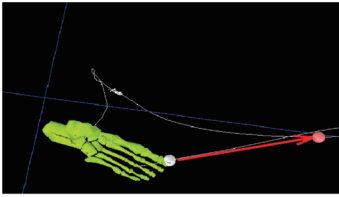
直立しているときの床反力と COP に着目してください。赤い線が右足の床反力、空色
が左足の床反力です。それぞれが床を貫く点が COP です。真ん中の白い線が左右の足
の床反力を合成したものです。この力が全身を支えています。白い床反力の先に見え
ているのが重心です。重心から下に伸びている緑の線は重力を表現しています。白い
線と緑の線は長さが同じで、向きが反対、しかも同じ線上にあります。これが転倒し
ないための条件です。つまり重心の真下で COP が支えています。一般的には重心が支
持基底面の上であれば転倒しないと表現されますが、厳密にいうとそれは間違えです。
重心の真下で COP が支えていることが転倒しないための条件です。



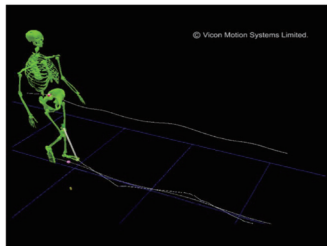
重心点と COP の相互作用を模式的にまとめてみましょう。歩き始めの当初は重心を右前方に動かしたいので、COP はそれと正反対の左後方に移動します。図の赤丸は重心の位置を床面に投影したものです。すると COP (白丸) と重心 (赤丸) の位置に差ができます。このとき COP から重心方向に向かって、位置の差に対応した力が作用するとイメージしてください。すると重心にはその力の方向に加速度が生じ、そちらに加速されます。



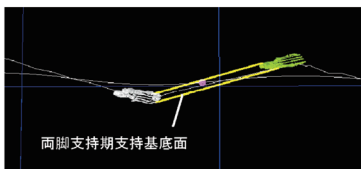
時間を少し進めてみましょう。この時期でも同様に COP から重心に向かって力が作用し (これはイメージです。この矢印がそのまま力になるわけではありません)、重心を加速します。この場合にはすでに重心は右前方に移動していますから、斜め横から力が作用する形になり、進路変更がされることになります。



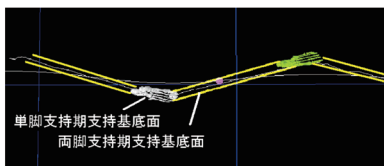
これは歩き始めがだいぶ進んだ時期です。この時期は、かなり後方から重心を押し出していますので大きな加速度で重心を前方に加速します。このようにあたかも低気圧・高気圧が台風の進路を変えるかのよう、COP が重心の進路や速度を加減しているイメージをもってください。



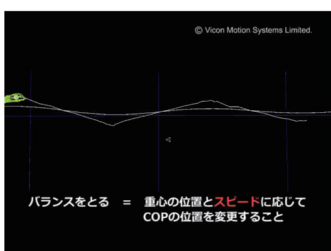
歩行中の重心の動きと床反力を見てみましょう。斜め上から眺めると、COP は前後で重心を挟み込むように移動しているだけでなく、左右方向でも両方から挟み込むようにして重心の軌跡をあやつっているように見えます。ちょうど羊の群れを思う方向に移動させる羊飼いの犬のような働きを担っています。



ここで基底面の考えを適用してみましょう。両足が接床している両脚支持期では黄色で囲った領域が基底面になります。ここでは前の足では踵のみが接床しており、後ろの足では前足部のみが接床しています。

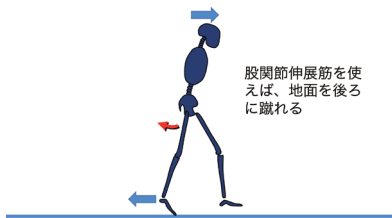


単脚支持期では着いている足の足跡が基底面ですから、すべての時期の基底面をつないで考えると図のような細い通路が支持基底面です。単脚支持期には重心は支持基底面にまったく入っていないことがわかります。両脚支持期にも重心は支持基底面にほんの少しの時間に入っているだけです。



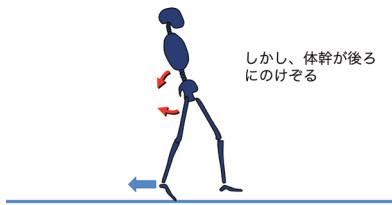
基底面は重心の位置をコントロールするために配置されていなければなりません。歩行中のバランスをとるというのは重心の位置とスピードに応じて COP の位置を変え、基底面を適切に配置することです。このように歩行というのは決して安定な状態が続いているのではなく、むしろ不安定な状態が規則正しく連続しているといったほうが正確です。

補足 歩行中のパッセンジャーの前後バランス



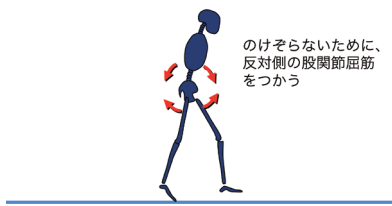
歩行中のパッセンジャーの前後バランスです。股関節伸筋を使えば地面を後ろに蹴れます。

補足 歩行中のパッセンジャーの前後バランス



しかし、体幹が後ろにのけぞります。

補足 歩行中のパッセンジャーの前後バランス



のけぞらないために、反対側の股関節屈筋をつかいます。

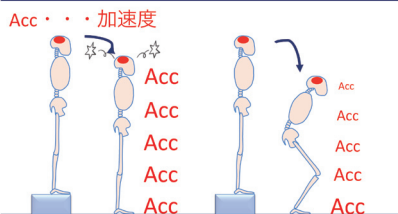
下肢に課された使命

上半身を安全に移動させる

衝撃を与えない

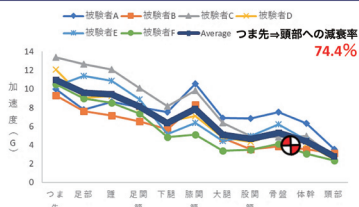
下肢（ロコモーター）に課された2つ目の使命はパッセンジャー（上半身）、特に脳に衝撃を与えないように安全に移動させることです。

20cm台からの落下

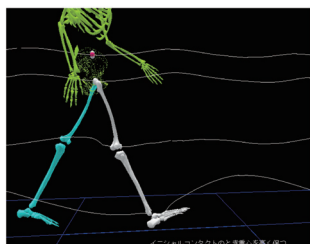


私の大学院生の一人が以下のような実験を行いました。20cmの台から落下したら身体各部の加速度はどれくらいの値になるかというものです。台から人が落下した場合、体節を曲げずそのまま降ると脳まで直接、衝撃が伝わるのはイメージがつくと思います。実際にはヒトは何らかの方法で脳へ伝わる加速度を最小限に抑えているだろうと考え実証してみました。

結果 加速度の減衰



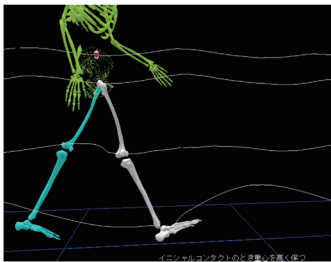
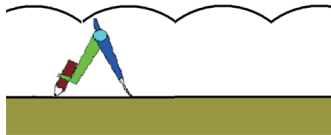
地面に最初に接触する足部ではなんと加速度が11Gから12Gにもなりました。これは曲芸飛行の際に加わるような加速度です。それが身体各部を順に伝わるうちに減衰し、頭部では1/4に減衰しました。歩行でも同じようなことが起きています。



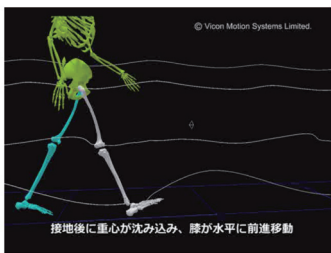
歩行中の重心は上下動を繰り返しますが、単脚立脚期で高く、両脚立脚期で低くなっています。

高いときの重心の高さは、直立時とほぼ同じです。片脚での立脚なので遊脚側下肢の重心の上昇によってやや高くなり、立脚側股関節の内転が大きくなる分、やや低くなります。その結果、直立時とほぼ同じになります。両脚支持期では重心位置が一番低くなります。上下動の差はおおむね3cm程度で、重心の軌跡は滑らかなサインカーブを示します。サインカーブが滑らかで振幅が小さいほど、歩行時のエネルギー消費は少なくなります。健常歩行ではどのようにして、滑らかで振幅の小さい重心の動きを実現しているのでしょうか。

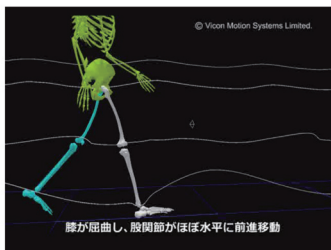
コンパス歩行



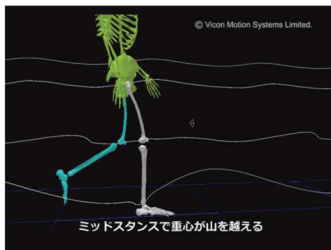
イニシャルコンタクトのときに重心を高く保つ



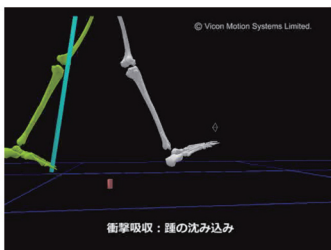
接地後に重心が沈み込み、膝が水平に前進移動



膝が屈曲し、股関節がほぼ水平に前進移動



ミッドスタンスで重心が山を越える



衝撃吸収：踵の沈み込み

もしヒトの二足歩行が図のようなコンパスを動かしたときのような動きだとすると、重心の軌跡は鋭い谷をもった軌跡を描くことになるでしょう。この軌跡の振幅を小さくするには2つの方法があります。それは単脚支持期の高さを下げるか両脚支持期の高さを上げるかです。単脚支持期の姿勢を考えると今以上には低くすることはむずかしそうです。そこで両脚支持期の重心位置をいかに「高く」するかが上下動を小さくするポイントになります。

その意味でイニシャルコンタクト（接種）の姿勢を見てください。前に出した足は踵で着地しています。後方に残った足は爪先立ちをしています。この姿勢を両脚の足底全体が床に着いた姿勢と比べると、明らかに重心が高くなるのがわかります。まず前の足が接床する前に後ろの足の足関節底屈筋でブレーキをかけ、かつ踵を浮かせることで重心位置を高く保ち、重心の移動方向を前下方ではなく、下方過ぎないように軌道修正します。前足について見ると、踵で着地することによって足部が踵を回転中心として前方向に回転できます。そうすると、足関節は前下方に進行できます。

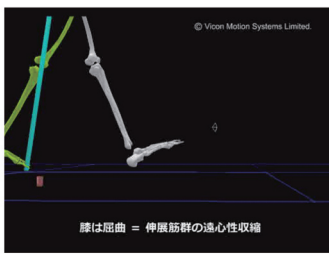
ローディングレスポンス（対象足の接地から反対足の離地まで）では、前の足が踵から接地すると踵を回転中心として足部が回転し、足関節が前下方に沈み込みます。これによってコンパス歩行のように重心の軌道が急激に上方へと軌道修正されなくてもすむようになります。

足関節が沈み込んだぶんだけ下腿部が立ち上がってきて、膝は床面に水平移動できません。足関節が少し屈曲し、これによって大腿部が床面に対してほぼ一定の角度で水平移動します。これによって股関節が床面に水平移動できます。重心の移動は股関節の移動とほぼ同じであり、重心も床面にほぼ水平に前進できます。次の時期には膝が伸展し、下肢全体が立ち上がってくるので重心位置は上方に向かいます。

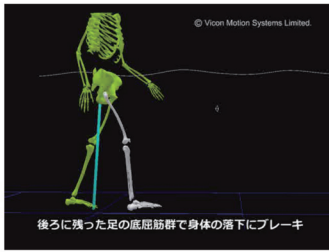
足関節を中心に下肢全体が前方に回転します。一度上昇した重心は下降します。前の足だった右足が後ろの足になり、先ほどと同じ状態が繰り返されます。以上のような関節運動によって重心の軌跡が滑らかなカーブになるのです。
※ミッドスタンス：反対足の離地から対象足の踵が浮くまで

これらの一連の動きを別の観点から見てみましょう。前に出した足が接地するときには大きな衝撃が加わります。接地時の足は約1cmの高さから落下するといわれています。このときの衝撃を体験してみましょう。立って踵を1cmくらいあげ、そのまま下に落としたときの衝撃を感じてみましょう。全身に衝撃が加わることがわかってと思います。人の歩行では、1歩ごとに接地した足にこの程度の衝撃が加わりますが、私たちはこのような衝撃を感じていません。イニシャルコンタクトでは、接地は必ず踵から行われます。踵には皮膚の軟部組織や靴のクッションがあり、衝撃を吸収しやすいのです。爪先部は片脚だけで身体全体を支えなくてはならない時期があるので、衝撃吸収しやすい構造にはなっていません。





踵から着地すると、床反力は踵から立ち上がり、足関節のやや後方を通過します。床反力は足部を底屈させようとしますが、これに足関節背屈筋群が遠心性収縮で抵抗します。すなわちブレーキをかけながら、ゆっくりと底屈を許します。このように筋の遠心性収縮の目的の1つは衝撃の吸収です。この図は前の足が接地してから少し経過したローディングレスポンスの時期です。この時期には床反力は膝の後方を通り、膝を屈曲させようとします。膝関節の伸展筋群が遠心性収縮でこれにブレーキをかけゆっくりと膝の屈曲を許します。ここでもまた筋の遠心性収縮で衝撃が吸収できます。

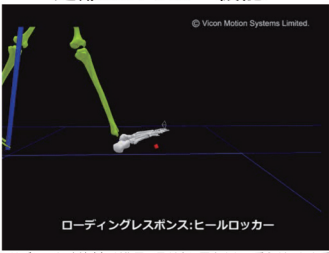


非常に興味あることに、衝撃吸収は前の足の接地より以前に始まっています。前の足のターミナルスウィング（遊脚期の最後）で後方に残った足の足関節は底屈筋が遠心性収縮をしています。これは前に倒れかかっている身体の落下にブレーキをかけているのです。このブレーキがなかったら、前の足の負担はもっと大きくなることでしょう。

歩行に課された使命
上半身を安全に移動させる
転倒させない
衝撃を与えない

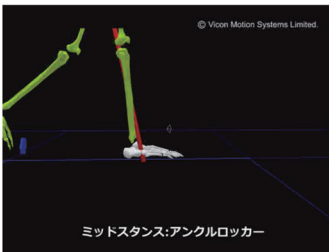
人体をこのように考えると、下肢の使命は、上半身を安全に移動させることだと考えられます。すなわち「転倒させない」そして「衝撃を与えない」で安全に移動させるということです。

足部のロッカー機能



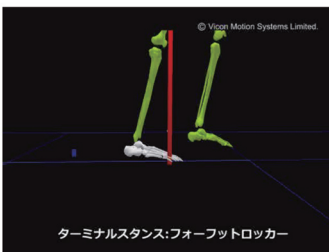
前の足にはブレーキ(摩擦力)が作用 足が床に固定され 重心がそれを乗り越える

最後にこれらの動きをロッカー機能の観点から見てみましょう。イニシャルコンタクトからローディングレスポンス時には、足部が踵を中心として前方に回転しています。これをヒール（踵）ロッカーという用語で表現したわけですが、ロッカーというのは揺り椅子のことで、踵部が揺り椅子の働きをして身体全体を前方回転させるイメージです。ヒールロッカー機能は接地の衝撃を吸収し、立脚期を円滑に進める重要な役割を演じています。ヒールロッカーで重心は一度わずかに下がりながら、前上方に動いていきます。



足底がしっかり床に固定され、重心が(そのわきの上を)通り越していき

ミッドスタンスで足部が床面に全面接地すると今度は足関節が回転中心になります。これがアングル（足関節）ロッカーです。アングルロッカー機能は不安定な単脚支持期にあって、足関節底屈筋によって重心の前方移動に適度なブレーキをかけ、重心を滑らかに前進させます。アングルロッカーでの重心は、上昇したのちに下降していきます。



踵が浮き、あしゆびの付け根を回転中心として足部が回転する

さらに荷重が前足部に移動すると踵が浮き、ターミナルスタンス（Tst）になります。Tstには反対足の位置決めをする重要な機能があります。Tstでは前足部が回転中心になります。これがフォーフト（前足部）ロッカーです。フォーフトロッカーはターミナルスタンスからプレスウィングまで続き、重心を後方の足から前の足に円滑に移行させる役割を担います。フォーフトロッカーでの重心は徐々に下降しながら前方に移動していきます。

※ターミナルスタンス：対象足の踵が浮いてから反対足の接地まで



江原 義弘（えはら よしひろ）

新潟医療福祉大学 副学長

〒 950-3198 新潟市北区島見町 1398 TEL/FAX 025-257-4441 (研究室)

URL : <http://www.nuhw.ac.jp> e-mail : ehara@nuhw.ac.jp

大学院義肢装具自立支援学分野

第 21 回定時総会概要報告

平成 30 年 5 月 29 日（火）午後 2 時～ 4 時、台東区民会館 9 階「特別会議室」において第 21 回定時総会を開催。

印南淳代表理事が議長、神部俊平専務理事が詳細を説明し、議案審議が行われ全ての議案が可決した。

【定足数の確認】

会員総数 41 社

出席総数 37 社（出席 21 社、委任状 16 社）

【来賓挨拶】

経済産業省製造産業局生活製品課 課長補佐 石川 高志 様よりご挨拶

一般社団法人日本皮革産業連合会 専務理事 朝稲 秀男 様よりご挨拶

【議事】

第 1 号議案

平成 29 年度事業報告の件

I 概要 II 会員の状況 III 各部会事業報告

・シューフィッター部会、シューフィッタークラブ部会、情報交流部会、新規事業部会

第 2 号議案

平成 29 年度決算報告の件

会計監査報告（監事）長谷川 雅洋、富田 常一

第 3 号議案

平成 30 年度事業計画（案）の件

I 概要 II 基本方針 III 各部会事業説明

・シューフィッター部会、シューフィッタークラブ部会、情報交流部会、新規事業部会
アクションプラン参照（17 頁）

第 4 号議案

平成 30 年度収支予算（案）の件

議案書に基づき詳細説明

第 5 号議案

定款変更の件

別途配布資料「定款変更（案）」に基づき詳細説明

第 6 号議案

欠員による新理事承認の件（任期 1 年）

理事就任 高橋 周一、秋満 茂喜、大澤 幸子

【報告事項】

- 1、新副会長 大丸孝之理事紹介
- 2、新会員 エイゾーコレクション紹介
- 3、台湾足靴協会の表敬訪問
- 4、シューフィッター大高成氏の自費出版本について



平成 30 年度アクションプラン

事業名	部会別	行動計画 (内 容)			行動スケジュール			
					4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
人材養成事業	SF 部会	シューフィッター養成講座	プライマリーコース 養成人員 360名	東京	第126回 4月 25～27日	第127回 7月 18～20日	第129回 10月 17～19日	第130回 1月 23～25日
				関西	第125回 (大阪) 4月 10～12日	第128回 (神戸) 9月 11～13日		
			東京	6月開講（1年間・スクーリング9日間）				
					6月 20～22日		11月 7～9日	3月 13～15日
							10月 25、26日	
					12月 5、6日			
	新規事業部会	マスター開設分科会			マスターコース平成31年度開講に向けて原案作成			
	SFC 部会	補習講座 (講演会、実技研修)	東日本支部	4回	6月 (松戸)	9月 (東京)	12月 (東京)	2月 (東京)
			西日本支部	4回	5月 (大阪)	8月 (大阪)	10月 (姫路)	2月 (大阪)
		アメリカ海外研修旅行					11月 12～17日	
日本靴医学会学術集会参加				9月 23、24日 両国・KFC				
ホームページ更新、管理費			更新、管理費、フォーム追加作成					
情報交流部会	情報誌「トレデュニオン」発行		3回		No. 58 (8月号)	No. 59 (12月号)	No. 60 (4月号)	
	消費者啓発事業 足と靴と健康講座			消費者向け講演会、小冊子発行				
	FHA 会員向け講演会						講演会	



会員企業紹介 9



株式会社コロンブス

来年で創業 100 周年を迎える靴クリームや靴用品の老舗メーカー、
株式会社コロンブスの本社を訪問し取締役 服部 暁人様にお話をお伺いしました。

現在の状況は？

革靴業界全体が厳しい状況の中、弊社も大きな流れからは逃れられない。昔は全国津々浦々どこにでも弊社の商品は、靴小売店には必ずあったのだが、今は商品を卸す問屋が少なくなっている時代なので、ニーズがあっても商品を卸すことができず厳しい面もある。

これからの展望は？

来年創業 100 周年を迎える。日本にシューケア文化を根付かせる良いチャンスだと思うので、露出を増やしていきたい。100 年続いているのはお客様のおかげ、その感謝の気持ちを形にすべく様々なイベントを企画中。

海外とインターネット通販にも力を入れていく。現在、海外と通販合わせて 5% くらいの売上だが、ここの比率を伸ばしていきたい。そのために世界最大のメンズファッション展示会「Pitti Uomo」に出展している。日本人は器用で真面目で細かいので、靴磨きが丁寧。ヨーロッパ人は油性クリームで少し磨くくらいで、意外と自分では磨かない。ただ、そこにチャンスがある。メイドインジャパンのやり方でお手入れ方法を啓発していきたい。

革靴からスニーカーへの流れはトレンドでは無く時代の流れだと捉えている。ウォーキング、ランニングはブームでは無く生活の一部になっている。東京オリンピックもあるので、この流れはさらに加速していくと思う。その流れに抗うのでは無く、うまく取り込んで商品を充実させていきたい。これまで通り革にこだわり続けながらも、スニーカーにも同じくらいこだわっていく必要がある。

御社ならではの取り組みは？

千葉県松戸に自社工場がある。職人の手による商品作り、そこは変えずにメイドインジャパンにこだわっていきたい。それが製品への信頼、そして誠実な会社という安心感につな

がっていくと思う。

テレビにも取り上げられた「靴磨き入社式」を 40 年以上やっている。先輩社員が先に新入社員の靴を磨いてくれてお手入れ方法を教えてくれる。ベアになった社員は、その後も先輩後輩の良い関係が続いているパターンが多い。スタイルを変えたいという気持ちもあるが、あえて変えずにずっと同じことをやり続けることが誠実、真面目なコロンブスカラーを生み出していると思う。学生時代は靴磨きなどやった事が無い新社員がいきなり偉い上司にひざまずいてもらって靴を磨いてもらうので、とても印象に残り何年経っても覚えている。

シューフィッターに伝えたいこと

1 日履いた靴は帰宅したら必ずブラッシングしていただく。靴を大切にすることの延長線上にいろいろなことがある。シューキーパーを入れる。インソールを入れて靴をフィットさせる。お客様とのプラスのコミュニケーションに弊社の商品を使って欲しい。クリーム、インソール、靴紐と弊社はトータルで商品をラインアップしているので、様々な形でシューフィッターの皆様とお付き合いができと考えています。また、「こういった商品が欲しい」といった声をぜひ弊社に届けて欲しい。シューフィッターの皆様と一緒にシューケア文化を深めていきたいと思えます。

- ・ 創業：1919 年
- ・ 資本金：1 億円
- ・ 代表取締役社長：服部 達人
- ・ 従業員数：383 名
- ・ 事業内容：靴クリーム、靴用品、
革製品のお手入れ用品、企画・製造・販売
- ・ 本社所在地：〒111-8610 東京都台東区寿 4-16-7





会員企業紹介 10



シアンインターナショナル株式会社

「靴を通して健康に奉仕する」という企業理念のもと、世界の国々から履きやすくファッショナブルな靴を日本に提供し続けるシアンインターナショナル株式会社の本社を訪問し、代表取締役社長 紫安浩司様にお話をお伺いしました。

現在の状況は？

「靴を通して健康に奉仕する」という創業以来の企業理念のもと、世界の国々から優良な靴を輸入してお客様に提供し喜んで頂くことを目的とした会社づくりを目指しております。この理念に基づき健康志向の靴をドイツはじめ、海外の靴メーカーから輸入して日本全国の優良なお取引先様に扱って頂いております。楽観はできない状況ですがまずまず安定した業績で推移しています。

これからの展望は？

日本は人口が頭打ちのなか高齢化社会を迎えつつあります。これは高齢者の比率が増加しているということです。これからマーケットは縮小していきますので、消費者は今まで以上に自分の価値観で商品を選択する時代になると思います。このことをふまえて、お客様（消費者）の価値観にフィットし、オリジナリティがあり、付加価値の高い健康的で歩くのが楽しくなる高級靴を継続的に提供していきたいです。また、その先の超高齢化社会に向けて介護用などの靴にも対応していくことが、時代のニーズとして求められてくるのではと感じています。

御社ならではの取り組みは？

海外メーカーの靴をオリジナルのまま輸入するだけではなく、日本人の趣向や生活様式に合うようメーカーにお願いして協力してもらいジャパンオリジナルも作っています。また商品を輸入したあとに、靴ひもを交換したり、シューアクセサリーをプラスしてよりファッショナブルでより良い商品にする工夫をしています。さらにはお取引先様と販売促進のためのイベントなども定期的に行い、活発な意見交換や情報収集で密にコミュニケーションをとって、より良いパートナーシップを築いています。

シューフィッターに伝えたいこと

一人一人の顔が違うように足も十人十色です。同じ足の人はいません。足と靴の架け橋がシューフィッターです。皆様がおすすめした靴でお客様が快適に楽しく歩いて健康的な毎日（人生）を送れたら、これこそみんなの幸せだと思います。また時代が移り変わってデジタル化がどんなに進んだ社会になっても「心と心のふれあい」は大切にしたいものです。心にも「フィット」するハートフルな接客で最適な一足をこれからもずっと探してあげてください。



- ・ 創 業：1987年2月20日
- ・ 資 本 金：3,000万円
- ・ 代表取締役社長：紫安 浩司
- ・ 従業員数：27名（グループ総数 120名）
- ・ 事業内容：高級革靴の卸・販売及び輸入業務
- ・ 本社所在地：
〒111-0034 東京都台東区雷門2-20-2

第17回バチェラー（上級）コース認定者一覧（2018年5月9日認定）



氏名	会社名
住田 渚	AKAISHI
榎 貴行	shoes studio FootQuest
長根 伸佳	森スポーツ
荻野 健太郎	シューズギャラリーコヤナギ
岡 洋介	OKAMOTOYA 岡本屋履物店
大井 早紀子	大井製作所
前川 莉恵	卑弥呼

氏名	会社名
磯崎 尚子	アサヒシューズ
角 幸治	
鈴木 豊人	
當山 愛	メイダイ
石田 真弓	そごう・西武 そごう広島店
長谷川 倫子	介護老人保健施設すみれ
石岡 周	エレヌ

氏名	会社名
中沢 忠久	EDWARD GREEN 銀座店
道場 しげの	足の健康専門店 La Vie 223
福住 俊子	フクズミ
重藤 由香	アサヒシューズ
樽見 佳司	アサヒシューズ
馬部 高輔	自宅

（受講者の声） どんな愁訴を持った方に対しても適切な対応が出来るようになりたい、と思ったことが受講のきっかけでした。参加する前はとても不安でしたが、良い環境の中、親切的な同期の皆さんと勉強することが出来たおかげで、大変充実した1年を過ごすことが出来ました。今後も学んだ知識を深め、シューフィッターとしてたくさんの経験を積み、お客様との信頼関係を築きながら日々成長できるように精進していきたいと思っております。同期の皆さん、講師の先生方、事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

株式会社 AKAISHI AKAISHILab 本店 住田 渚

第7回シニア専門コース申込み受付中

日程：2018年10月25、26日（2日間）
会場：東京・両国国際ファッションセンター
受講料：66,000円（税別）



第10回幼児子ども専門コース申込み受付中

日程：2018年12月5、6日（2日間）
会場：東京・両国国際ファッションセンター
受講料：66,000円（税別）



第19回バチェラー（上級）コース申込み受付中

日程：2019年7月～2020年3月
スクーリング3日間×3回（7、11、3月）
会場：東京・両国国際ファッションセンター
受講料：260,000円（税別）



書籍紹介〈お客様を幸せにする「靴売り場」〉

女性初のシューフィッターが、50年間追い求めてきた理想の「靴売り場」が本書にあります

売る人も、買う人も もう悩まない！
お客様を幸せにする「靴売り場」

- ・第1章
今どき、あえて「お店で買うメリット」は？
- ・第2章
売り場づくりは面白い！
いいお店の見分け方
- ・第3章
靴をもっと知ろう！
いい靴を選ぶために
- ・第4章
これからの「靴」の売り方・買い方

著者：上級シューフィッター 久保田美智子
形態：四六判 並製本
価格：1,400円（税別）
発行：キクロス出版
発売：2018年8月上旬



※住所宛名のお名前の横に★印がある方は SFC 会費が未納です。
（本冊子と行き違いでご入金済の際は、なにとぞご容赦ください）

※勤務先や自宅住所等を変更した時は必ず事務局までご連絡ください。
連絡が無い場合はトレデュニオンや補習講座、資格更新の案内等をお届けできない場合があります。

ホームページ FHA/SFC 会員専用パスワード：kmhs7646

○・・・トレデュニオン・・・○

“トレデュニオン”は、フランス語です。英語では Hyphen（ハイフン）にあたります。FHA 事業理念をもとに FHA 会員、SF、SFC 会員の相互を密接に結び情報誌という意味で命名しました。

No. 58（通算 93号） 2018年8月1日発行
〈編集・発行〉一般社団法人 足と靴と健康協議会
〒111-0032 東京都台東区浅草 7-1-9
Tel. (03) 3874-7646 Fax. (03) 3875-0880
Email fha@tokyo.email.ne.jp URL http://www.fha.gr.jp/
※ 禁・転載複製

表紙デザイン：株式会社ジャルフィック 池田 正晴